



サイクリストの憩いの場

－ りんりんポート土浦の整備 －

土浦市都市産業部都市計画課 まちづくり推進室 主任 草野 智 則

■はじめに

土浦市は、東は霞ヶ浦に面し、西は筑波山を望む、水と緑に恵まれた歴史と伝統のある県南を代表する商業都市として栄えてきました。

近年は、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の結節点としての特徴を活かし、サイクリングの街として脚光を浴びており、土浦駅ビル「プレイアトレ土浦」内に茨城県、土浦市、JR東日本が連携して整備した「りんりんスクエア土浦」や本年3月開業予定の星野リゾートが運営するサイクリングホテル「BEB5土浦」等による受入環境の充実や自転車道や矢羽根の整備をはじめとした走行環境の改善等、サイクリストの集客に向けた取り組みを進めています。

さらに、昨年11月には、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」が「ナショナルサイクルルート」のひとつとして指定されたこともあり、国内にとどまらず、国外からのインバウンド需要も合わせて、更なる集客が期待されています。



位置図

■経緯

「りんりんポート土浦」の敷地は、霞ヶ浦湖畔にある約5.1haの土地になります。土浦駅からは、北東に約1km離れた場所にあり、近隣には、マリーナ、野球場、陸上競技場等が立地しています。中心市街地活性化の核となる用地として、市が取得した後、整備方針として平成29年度に「土浦港周辺広域交流拠点基本計画」をまとめ、敷地北側の約1.2haについて、市が先行整備を

実施し、南側にある残りの約3.9haについては、民間企業による集客施設等の建設を促すこととしました。

そのような中で、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」にアクセスしやすい立地を活かして、サイクリストを主なターゲットとした「りんりんポート土浦」を整備しました。



全体図

■整備概要

- ・所在地 : 土浦市川口二丁目13番25号
- ・主要用途 : 観光交流センター
- ・建築物構造 : 鉄骨造平屋建
- ・建築面積 : 464.80㎡
- ・延床面積 : 264.51㎡
- ・事業費 : 219,629千円
- ・開館日 : 平成31年3月30日

施設名称は、公募を実施し、霞ヶ浦を望む交流・活動の拠点として、多くの市民やサイクリストが立ち寄る港(ポート)になるようにという願いが込められています。

施設の機能としては、無料Wifi完備の休憩スペース、メンテナンススペース、トイレ、多目的室、シャワー室等があります。サイクルラックは、施設内外に設置しており、自転車を施設内に持ち込むことができるとともに、クリーンやチューブ等のサイクルパーツ及び栄養補助食品等を販売するサイクリスト向け自動販売機が設置されており、サイクリストの需要に応じています。

施設の屋上には、カウンターや椅子等を設置することにより、心地よい風を受けながら、マリーナ越しに霞ヶ



浦を見ることができます。

また、100台の無料駐車場を備え、自家用車等による来客に対応しています。

「りんりんポート土浦」は、県内有数の観光資源である霞ヶ浦及び筑波山や、亀城公園を中心とした歴史的街並みが残る土浦市内への観光の回遊拠点としての役割が期待されています。



施設外観



サイクリスト向け自動販売機、サイクルラック



屋上

■ 利用実績（施設入館者数）

平成31年 4月	3,054人
令和元年 5月	2,693人
令和元年 6月	1,451人
令和元年 7月	1,557人
令和元年 8月	2,009人

令和元年 9月 2,203人

令和元年 10月 1,733人

令和元年 11月 3,729人

令和元年 12月 1,445人

利用者の概ね半数程度が、サイクリストの方に利用いただいております。特に休日は、ここを発着点としてサイクリングに出かける人や、サイクリング中の休憩地点として、館内でくつろぐ方々が多く見られます。

また、天気の良い日は、サイクリストのみならず、家族連れ等が屋上から霞ヶ浦の眺めを楽しむ等、地域住民の憩いの場としても活用されています。



休憩スペース

■ 今後の展開について

今後は、隣接するマリナーを活用した「サイクルーズ」やサイクリング関係のイベント以外にも、トライアスロン、フリースケートなど様々なイベント等で活用することにより、水辺の賑わいづくりに取り組んでいきます。

また、「りんりんポート土浦」南側の敷地約3.9haについて、「民間事業者誘導事業」を実施しており、民間活力の誘導により、水辺空間を市民等に広く開放するとともに、観光客が訪れる魅力ある空間を創出することで、更なる賑わいを呼び込みたいと考えています。



オープニングイベント